

# 平成 31 年度学校関係者評価

吉川中学校

1 教育課程について ～授業力の向上「学びあう授業」～

計 画	<p>① より豊かな教育の推進のための小中一貫教育の研究の推進を行う。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びを育む授業の研究（班学習の研究を中心に）を進める。</p> <p>③ 大阪府道徳教育研究指定（2年目）を受けて、全学年で特別の教科「道徳」の授業実践をすすめる。</p> <p>④ 学力の向上に努めるため、配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用し、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%以上とする。</p> <p>⑤ 支援教育、通常の学級に在籍する支援の必要な生徒への支援、通級指導の充実を図る。</p> <p>⑥ 目標に準拠した評価のあり方を研究し、生徒の意欲を高める指導と評価の一体化を進める。</p>
取 組	<p>① 小中一貫教育を推進されている先進校【姫路市立白鷺小中学校（2名）、池田市立ほそごう学園（3名）、京都市立東山開晴館（3名）】の3校を視察した。中学校としては、学習指導面はもとより、生徒指導面においても小学校との連携が日常的にできることがメリットではないかと感じた。</p> <p>② 『「意欲を育て、主体的に学ぶ授業の研究と実践」～わかる授業の創造から～』を重点目標に、今年度は大阪府教育委員会指定「スクール・エンパワーメント推進事業」を受け研究を進めた。具体的には、校内研修推進委員会を特別委員会として設置し、管理職、首席、こども支援コーディネーター、本事業担当者、校内研修担当者を委員とし、毎週月曜日の3時間目に委員会を持った。今年度の目標は、これまでの成果と課題、さらには次年度の目標設定とした。これまでの成果としては、本時の課題の提示や班学習を取り入れた授業スタイルが、どの授業でも実践されていたことや、グループ学習が、様々な形や場面で取り入れられていたことがあげられる。また、相互参観授業週間を年間3回実施したところ、多くの先生が教科を超えて他の先生の授業を参観し、それぞれの授業の良いところを共有することができたこともあげられる。そのほかに、今年度は、初任者（体育）による研究授業1回、2年目教員（英語）による研究授業1回、5年目教員（国語・数学）による研究授業2回を実施することができた。さらには、食育との関連に取り組んだ授業（理科）を1回行った。初任者の研究授業は、体育科の専門家として堺市教育会の辻本修一先生にご指導いただいた。</p> <p>③ 今年度は、関西外国語大学の太田和男教授にご指導をいただいた。1年3クラスが公開授業を行い、事後授業検討会及び道徳の授業及び評価について研修会を持った。今年度も、保護者対象の道徳の授業公開を全学年10月30日に行い、府教育委員会指導主事のご指導もいただいた。</p> <p>④ 今年度も数学（2名）と英語（1名）の加配教員を府より配置いただき、生徒の実態に応じて習熟度別分割指導やTT授業（2人体制での授業）を行った。習熟度別授業は、数学においては全学年で全授業時数の75%程度、英語においては2、3年生で54%程度実施した。</p> <p>⑤ 支援学級在籍の生徒については、入学後や各行事前などに全教職員で配慮事項について情報を共有した。また、来年度入学・支援学級入級予定の児童の様子については、全教員が3小学校へ授業参観にいき、児童の様子を把握し、11月に実施している体験入学の場なども活用して、入学してくる児童について事前に一人ひとりの様子を把握するよう努めた。</p> <p>⑥ 今年度は、道徳の評価について、前述の太田教授にご指導をいただいた。基本的には文章表記で生徒の良い場面を評価していくことが大切で、そのためにはポートフォリオ（生徒たちが学習過程で残したレポートや試験用紙、活動の様子を残した写真などを、ファイルに入れて保存する評価方法）を実施していくことが良いとご指導いただいた。</p>
評	<p>○生徒の評価 ※（H29年度、H30年度、<b>H31年度</b>）の肯定的評価の割合 H31年度学校教育自己診断の授業に関する項目の結果によると「好きな授業がある」（88.6% <b>91.8%</b> <b>90.5%</b>）「授業をわかりやすくしようとしている」（95.5% <b>97.3%</b> <b>95.9%</b>）「少人数授業は分かりやすい」（93.4% <b>92.2%</b> <b>92.1%</b>）「朝の読書は落ち着いて読書のできる時間」（90.2% <b>95.1%</b> <b>93.8%</b>）であり、若干変動はあるが、良好な結果である。</p> <p>○保護者の評価 「支援教育の充実に努めている」（85.4% <b>88.4%</b> <b>89.6%</b>）「少人数授業、きめ細やかな指導、分かりやすい授業の工夫・研究」（81.9% <b>89.7%</b> <b>89.7%</b>）「放課後まなび舎教室・家庭学習計画表・補習などを通じて自学自習力の向上に努めている」（86.0% <b>84.9%</b> <b>86.9%</b>）「読書活動に力を入れている」（84.1% <b>89.6%</b> <b>89.3%</b>）であった。概ね良好な結果である。</p>

<p>価</p>	<p>○総括的        新しい学習指導要領の学力観に沿った授業づくり（主体的・対話的で深い学びを育む）を行うためには、教員の授業力向上が必要である。本年度は、府教育委員会の研究指定の事業を受けることにより、校内の研究体制づくりを進めた。そのことにより、公開授業や研究授業が校内体制として行われるようになった。この数年は、班学習の推進や学習のめあての提示など授業改善の具体的な方法の一つとして進めてきたが、定着してきていることが分かった。今後は、授業の「ふりかえり」について研究を進める予定である。        また、夏季休業中の課題などで外部機関のコンクールへの応募を前提とした募集を行い、学びへの意欲付けに活用した。今年度は、府の学生科学賞に町の審査を経て2名の理科自由研究作品を出展することができた。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 学力向上、支援教育等に力を入れて取り組まれて成果が出ていると思います。今後は、「より自主的な学び」への意欲を高めていただきたい。</p> <p>○ 小中一貫教育の先進校を述べ8名の教職員が視察し、小学校との連携が日常的にできることの良さに気づき、校内の研究に生かしていったことは大いに評価できます。</p> <p>○ 大阪府教育委員会指定「スクール・エンパワーメント推進事業」を受け研究を進めた結果、教科を超えた学校全体の研究として動き出した感じが伝わってきました。一人の百歩より、百人の一步です。学校全体としての動きは、きっと大きな力となることでしょう。</p> <p>○ ④の「学力の向上に努めるため、配置された加配教員（数2、英1）を最大限活用し、数学科と英語科の習熟度別指導の実施率を50%以上とする。」という目標は、十分達成されました。次年度に向けては、習熟度別授業の効果的な授業内容に焦点を当ててみてはいかがでしょうか。</p> <p>○ H31年度学校教育自己診断の授業に関する項目の結果は、生徒評価においては、肯定的評価がいずれも90%台を超えており、素晴らしいと思います。今後は、「より積極的な肯定」と「どちらかと言えば肯定」の割合がわかるように3年間比較してみてはいかがでしょうか。</p>

2 生徒指導について ～寄り添う指導をとおして集団づくり「高めあう学校」～

- 計  
画
- ① 生徒の生活の原点を見据えた指導を行う。
  - ② いじめを許さない集団づくりをめざす。
  - ③ 学校での生活環境を整える。
  - ④ 不登校0、いじめ早期発見、早期解決をめざす。
  - ⑤ 部活動の指導では、明確な目標を設定し、指導を行う。
  - ⑥ 生徒会役員と学校協議会やPTA役員との意見交流会を行い、課題解決に向けて学校総体として取り組む仕組みづくりを行う。
  - ⑦ 生徒のコミュニケーション力や社会性を高める機会を設ける。

- 取  
組
- ① 毎朝の出欠状況を学年として把握する為に、生徒の出席確認を徹底した。学年で生徒の把握を行い、登校が出来ていない生徒や、欠席が連続した生徒には、家庭との適切な連携を図った。不登校傾向のある生徒については、個別の状況に応じた指導を行い、学年団やこども支援コーディネーター等とケース会議を行い、今後の方向を確認しながら指導を行った。学校全体での情報共有の場として、毎週1回、各学年の担当者、こども支援コーディネーター、管理職で、各学年の状況について、情報を共有する場(学年生徒指導連絡会)を持った。また、必要な場合には、専門職(スクールカウンセラー等)を招聘しケース会議を行った。今年度は、小学校との連携によるケース会議も実施した。会議では現状と指導の方向性を共通確認しながら、関係者の役割を確認して進めた。また、生徒一人ひとりの状況を把握した上で、町の適応指導教室や校内のカウンセリングルーム、さらには外部機関との連携を行った。
  - ② 道徳、総合、学活などを通じて体験を重視し、より生徒が主体的に取り組めるよう行事を工夫し自尊感情が高まるようにした。校外学習などの行事を実施するときは、生徒から実行委員を募り、生徒のアイデアを取り入れたり、運営を任せたりするなど工夫をした。また、学期ごとに生徒に生活アンケートを実施し、いじめや体罰も含めて、生徒の状況把握に努めた。
  - ③ 各学期末に大掃除を実施した。また、PTAの協力を得ながらクリーン作戦(年間2回)の実施や、福祉団体のボランティアの方や教職員による草刈り、地域ボランティアの方による中庭花壇整備、PTA学級委員による施設点検なども実施した。また、教職員による全施設の安全点検を7月、11月、2月に実施し、整備が必要な箇所については、教育委員会に要望を行った。
  - ④ 生徒間のトラブルはすぐに学年団として対応したうえで保護者に状況を説明し、解決を図ってきた。不登校状態にある生徒へは、保護者とも十分話し合い、指導の方法を探った。また、欠席時には、担任やこども支援コーディネーターによる家庭訪問を行った。校内の全体の様子は、こども支援コーディネーターが把握し、必要に応じて学年・担任への支援を行った。また、教室に入りにくい状況になった生徒が学習したり、相談したりできるカウンセリングルームを運営し、個に応じた居場所として活用した。また、学校外の適応指導教室等との連携を行った。
  - ⑤ 年度初めに、キャプテン会議を経て学校の方針を伝え、それをもとに各クラブミーティングを行い、活動目標や方針を明確にした。クラブ活動の活性化のために、他校と合同練習(野球部、陸上部)や練習試合を定期的にするなど活動の幅を広げた。また、今後の生徒数の状況を考慮しつつも、単年度で条件を満たさなかった場合は廃部となっていたところを2年継続した場合に改め、クラブ数の確保を考えた廃部規定に改訂した。
  - ⑥ 10月に前期生徒会役員と学校協議会委員及びPTA役員との交流会を持ち、生徒が自分の考えを発表した後、意見交換を行った。生徒会活動の活性化を目的としているが、中学生が、町の将来を真剣に考えているようすが見られ感心させられた。
  - ⑦ 体育大会や合唱発表会を始め、3年生では修学旅行(長崎方面への平和学習と民泊体験)、地域の就学前施設での保育体験学習、2年生では宿泊学習(岡山方面)、職場体験学習(3日間)、1年生では人権校外学習(国際理解)、福祉体験学習(車椅子バスケット体験)、障がい者理解教育(車いすの方の講話)、進路学習、いのちの学習(1276座による講演会)を実施した。さらには、全校生対象に視覚障がいの方のお話を聞く時間も設定した。また、生徒会による朝のあいさつ運動や学校周辺の清掃や花植え運動なども実施した。修学旅行は、来年度より沖縄方面で実施する。

○生徒の評価 ※(H29年度、H30年度、**H31年度**)の肯定的評価の割合  
「学校へ行くのが楽しい」(92.0%**92.9%****88.4%**)「基本的な生活習慣の確立に力を入れている」(95.8%

<p>評 価</p>	<p>96.5%<b>94.6%</b>)「あいさつはできていると思う」(87.5%94.5%<b>92.6%</b>)「命の大切さ、社会のルールの大 切さ、人権の大切さについて学んだり考えたりするように指導している」(96.5%97.3%<b>95.4%</b>)「いじ めや悩みや困っていることに対応しようとしている」(93.4%95.7%<b>96.3%</b>)「将来の夢や目標を持って いる」(75.8%75.0%<b>78.6%</b>)「人の役に立てる人間になりたい」(95.8%95.7%<b>95.1%</b>)「先生は将来の 夢や目標について考える機会をつくっている」(85.0%89.1%<b>88.8%</b>)であった。概ね良好な結果と考 えられるが、「学校へ行くのが楽しい」が4.5%下がった点は、課題である。友人との関係作りに悩む生 徒が増えていると考えられる。</p> <p>○保護者の評価 「学校へ行くのが楽しいと言っている」(86.5%87.7%<b>86.4%</b>)「基本的な生活習慣の確立に力を入れてい る」(91.8%91.3%<b>91.4%</b>)「命、社会のルール、人権の大切さについての指導を行っている」(87.5%93.2% <b>91.7%</b>)「いじめなど困っていることに耳を傾け対応している」(82.5%87.5%<b>86.3%</b>)であった。概ね 良好な結果である。</p> <p>○総括的 不登校傾向の生徒が増える傾向にある。要因は様々であるので、学校としては、一人ひとりに寄り添 った指導を大切にを進める必要がある。さらには、生徒自身が主体的に学校づくりに参画できるよう にすることが、主体的に自分たちの関係作りを進めることとなり、より大きな効果が期待できる。そのため にも、生徒会活動の活性化を今後も進めていきたい。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 不登校・いじめに対しては適切な対応がとられていると思うのですが、不登校生の数が少し増えてき ていることが気になります。小学校からの不登校に対応するために、より一層小学校との連携を強化 していただきたい。</p> <p>○ 「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が低いと感じました。先生は、「その機会を 作ってくれている」と思いながら目標を持ってないのは何故なのでしょう？いわゆるキャリア教育 (一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を養う教育)がもっと必要 だということでしょうか。</p> <p>○ 不登校の増加傾向は、今の社会の生き苦しさもあるのでしょうか。お忙しい中、先生方のきめ細かい ご指導が有り難いですね。</p> <p>○ 生徒間トラブルや不登校・いじめ問題について、組織的にすぐ対応することが定着しており、素晴ら しいと思います。このようなことが、小学校にも反映されるようになればよりよくなるのではないで しょうか。</p>

3 学校の危機管理について - 報告・連絡・相談・点検の徹底

計 画	<p>① コンプライアンスの徹底を図る</p> <p>② 学校の事故防止のため、日常の安全点検、報告・連絡・相談を行う。</p> <p>③ 学校情報の透明化を図り、積極的な発信に努める。</p> <p>④ 学校文書、公金、諸経費等は、複数の担当で管理・点検を行い、PTA や教育委員会の監査を受ける。</p> <p>⑤ 生徒・保護者・地域への学校ルールの指導と統一と徹底を図る。</p>
取 組	<p>① 教育公務員としてのコンプライアンスについては、年度初めにめざす教員像を提示するとともに、定期的に職員会議等で指導した。特に、生徒の個人情報に関わることや、交通規則の遵守等について、また、生徒の人権を大切にした教育の推進を目指して、ハラスメント防止についても教職員間で確認をした。金銭の扱いについては、主査が確認をする体制を今年度より始めた。修学旅行等の取り扱い業者の選定には、複数の業者にプレゼンテーションを依頼し、選定委員の総意で決定した。</p> <p>個人情報保護の観点やメール登録が増えてきたことを鑑みて、クラスごとに作成していた電話連絡網を廃止し、緊急メールによる一斉配信のみとした。</p> <p>② 校内の安全点検は、年3回教員による全校一斉点検（7月、11月、2月）と日常の清掃時間での点検を行い、工事等の必要な危険箇所については、教育委員会にお願いした。今年度は、肢体不自由の生徒が入学することもあって、手すりの設置等を行っていただいた。学校や地域等で発生した事案については、学年生徒指導連絡会を中心に全教員で情報共有を行い、必要な場合は町教委や豊能警察と連携し対応を行った。地震及び火災への対応については、避難訓練（4、12月）を実施した。</p> <p>③ 「学校だより」「学年だより」「進路通信」「保健だより」「図書だより」「給食だより」などを発行した。今年度は、「学校だより」を発行したときにメールでお知らせを流し、より多くの保護者の方に見てもらえるようにした。</p> <p>④ 学校文書、公金、諸経費については、管理職の許可のもとで取り扱っている。さらに毎年、町教育委員会の監査を受け、改善点等の指導を受けている。また、2月には町監査委員から監査を受けている。さらに、保護者からの徴収金については、3月にPTA 会長による監査を受ける。</p> <p>⑤ 生徒指導関係のルールについては、校内教員用の生徒指導マニュアルを毎年作成し、教員間で指導の相違が無いように共通確認を行っている。防犯教室と薬物乱用防止教室を豊能警察の協力で実施した。避難訓練を年間2回実施した。3小学校区の青少年育成協議会に担当が出席し、中学校のようすなどの情報共有を図った。</p>
評 価	<p>○生徒の評価 ※（H29年度、H30年度、<b>H31年度</b>）の肯定的評価の割合 「学校は『学校だより』等通じて情報を発信している」（94.6% 97.9% <b>97.0%</b>）「『学校だより』等を読んでいる」（66.7% 68.1% <b>71.7%</b>）「給食は適切に実施されている」（43.9% 62.1% <b>69.8%</b>）であった。「学校だより」には、始業式等で生徒に話した内容を保護者に伝えたり、学校の行事や取り組みなどを紹介したりした。例年生徒会からは、給食の改善が要望されていたが、今年度は、セレクトメニューを増やしてほしいなど、楽しい給食を考えた具体的な改善策になった。栄養士を中心に食育推進の授業や生徒会による工場見学などを継続して実施してきた成果と考えられる。</p> <p>○保護者の評価 「学校は教育方針や活動を分かりやすく伝えている」（87.5% 88.0% <b>90.9%</b>）「学校は情報発信や連絡・情報提供を行っている」（94.2% 94.8% <b>91.8%</b>）「子どもを通じて情報は保護者に届いている」（76.0% 79.1% <b>80.0%</b>）「給食は適切に実施されている」（43.9% 62.5% <b>62.9%</b>）「施設・設備の安全管理を適切に行っている」（79.9% 82.1% <b>81.1%</b>）「生徒の健康管理に努めようとしている」（87.1% 88.8% <b>91.3%</b>）であった。クラスの電話連絡網を廃止した。それに代えて学校の緊急メールでの一斉配信とした。しかし、まだ登録率が100%ではないので、未登録の家庭については学校から電話にて連絡を入れている。また、毎月初めに定期的にメールを配信し、受信できているかの確認を行ってもらえるようにしていた。</p>

	<p>○総括的</p> <p>生徒会は、給食会社の見学と話し合いを役割の一つと考えている。そのため、改善については、質問内容を事前に考え、目的を持って話し合いを行っている。今年度は2回実施した。給食の残食量は毎年少しずつではあるが減少してきた。それに合わせて、給食への肯定的評価も向上してきた。今後も給食が適切な食育の場となるよう努めていく必要がある。</p> <p>体育大会については、第3学年が2学級のため、2色対抗での実施とした。また、生徒会の要望により生徒席用のテントの設置を充実させた。PTAより、生徒席用のテントを寄付していただいた。</p> <p>学校施設については、学校の再配置との関係から大きな修繕は実施できていない。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 東京のある高校で、4000件の個人情報の入ったUSBメモリーを紛失する事故があり、保護者説明会やプレス発表等で大変な状況になっているようです。危機管理の徹底については、しすぎるということはないです。よろしくお願い致します。</p> <p>○ 学校施設の老朽化による修繕は、在校生のために学校の再配置等に関係なく実施すべきです。より良い環境で充実した学校生活を送れるようにすることこそが大切です。学校としてさらに強く町に要望していただきたい。</p> <p>○ 「学校だよりを発行したときにメールでお知らせを流し、より多くの保護者の方に見てもらえるようにした。」ことは、非常に評価できる。家庭と学校がしっかりつながってこそ、生徒の教育はさらに充実したものになることでしょう。さらなるメールの活用も視野に入れて考えられたらと思います。</p> <p>○ 「学校情報の透明化を図り、積極的な発信」については、「学校だより」を自治会を通じて回覧されてはいかがでしょうか。</p> <p>○ 「修学旅行等の取り扱い業者の選定」については、小規模校になり益々難しくなると予想されます。東能勢中学と合同で選定するようにすれば、少しでも良い条件で選定できるのではないのでしょうか。また、修学旅行に限らず、学年2クラスという小規模校としての在り方を根本的に考えていく必要性を感じます。</p>

4 本校の将来像と信頼される学校づくりについて - 生徒の意欲と自主的行動力を育てる	
計画	<p>① 授業参観と授業公開週間を実施する。</p> <p>② 学校教育活動に地域等のボランティアとPTAの支援を積極的に活用して、学力向上や学習の充実、さらには部活動の充実などに取り組む。</p> <p>③ 学校の小規模化に伴い、他校との交流など、教育の充実のための学校運営のあり方を検討する。</p> <p>④ 小中一貫教育推進を積極的に行う。</p> <p>⑤ 学校協議会では、学校が保護者や地域住民等の信頼にこたえ、家庭や地域と連携・協力し、一体となって生徒たちの健やかな成長を図るために、様々な視点の幅広い意見を求めるとともに、学校関係者評価に取り組む。</p>
取組	<p>① 4月20日(土)、5月30日(木)に授業参観、10月30日(水)に公開授業、10月31日(木)に道徳の公開授業、10月30日～11月15日に生徒作品展を実施した。学年懇談会を各学年1回実施した。(3年生は6月28日に修学旅行報告、2年生は10月31日に職場体験学習の報告、1年生は10月31日に人権校外学習の報告。)今年度は、学級懇談会の司会進行をPTAの方が行うという方法を試行的に実施した。また、年度初めの懇談会等をスムーズに行うために、今年度中に次年度の学級委員等を決めておくというシステムも実施した。</p> <p>② 学校支援コーディネーターと連携し、定期テスト前に放課後まなび舎を実施した。また、教育委員会が実施している西公民館まなび舎への参加を推奨した。クラブ活動では、野球部、卓球部で地域ボランティアの方による外部コーチに実技面の指導をお願いしている。地域との連携では、1年生は命の大切さを学ぶための「命の授業」を子育て支援センターの支援を受けて1276座の方の講演会を実施した。2年生は実際に働くことを体験する3日間の職場体験学習で地域の事業所等にお世話になった。3年生は地域の読み聞かせの会の方にご指導を受けたのち、近隣の保育所幼稚園での保育体験学習を実施した。また、地域教育協議会主催の「ふれあいのつどい」で、生徒会と3小学校児童会とが連携し、その催しの運営の一端を担った。</p> <p>③ 生徒数の減少に伴い、クラブ数が減少してきている。そのため、個人で参加できる剣道、柔道、水泳、ゴルフについては、中学校体育連盟等の大会に出場ができるよう学校として対応した。また、吹奏楽部においては、地域の夏祭りで東能勢中学校文化サークルとの合同演奏を実現した。陸上部では、町内2中学校での合同練習を土曜日等を実施した。</p> <p>④ 小中一貫教育の推進については、今年度も町教委主催の小中一貫教育推進会議へ担当者が毎回参加し、12月には合同研修会に参加した。また、小学校の専科指導の充実のために本校に配置された加配教員が、年間を通じて校区の3小学校で高学年の英語の授業をTT授業として実施した。また、こども支援コーディネーターが小学校教員と連携し、中学校区内のケース会議へ出席し情報交換をするなど生徒指導面での連携を図った。</p> <p>⑤ 年間3回の学校協議会を開催し、学校の情報を伝え、ご意見を頂いた。また、10月には学校協議会委員とPTA役員による生徒会役員との懇談会を実施し、直接、生徒会役員へアドバイスをいただくことができた。参加した生徒は、大人の方との意見交流会にとっても満足感を持った。</p>
評価	<p>○生徒の評価 ※(H29年度、H30年度、<b>H31年度</b>)の肯定的評価の割合  「学校行事はみんなが楽しく、そしてがんばって取り組めるようになっている」(95.8% 94.5% <b>92.6%</b>)であった。大きな行事としては、合唱発表会や体育大会がある。どちらも実行委員形式で生徒自身が運営していくように取り組んでいる。また、近年は、学年での行事を設定し、内容も生徒の発想で決められるような学年行事を創っていつている。クラブ活動においても、生徒による自主的な活動となるように取り組んでいる。今後も、多くの生徒が主体的に行事に参加できるような指導を心掛けていきたいと考えている。</p> <p>○保護者の評価  「学校は合唱発表会、体育大会などの学校・学年行事等に生徒が前向きに取り組むよう指導している。」(92.9% 92.1% <b>94.7%</b>)「家庭では子どもとふれあう時間をつくらうとしている」(95.6% 96.0% <b>96.3%</b>)「家庭では進路について相談することを大切にしている。」(95.9% 98.0% <b>91.7%</b>)「地域人材の活用に努めている」(94.9% 96.8% <b>94.2%</b>)であった。</p>



	<p>学校としては、生徒の「自立心」を育てるという視点を大切に日々務めていることを保護者の方にご理解いただけるように取り組んでいる。中学生という思春期を迎える時期というのは、子育ての難しい時期でもあるため、学校としては保護者との連携をさらに深め、共に生徒の教育を進めていきたいと考えている。</p> <p>○総括的</p> <p>生徒の多くは、行事を前向きに取り組んでいる。また、保護者は生徒を温かく育てようとしている。学校としては、これからの社会を生き抜く力を育成するためには、学力とともにコミュニケーション力を高める教育を大切にしていきたいと考えている。そのための土台となるのが、「意欲」である。学校は、チャレンジする場であり、様々な中で自己肯定感を高める場である。今年度のスローガンである「Believe in yourself.～自分を信じて～」のように、生徒一人ひとりが活躍できるような学校づくりに今後も努めていく。</p>
<p>学 校 協 議 会 委 員 評 価</p>	<p>○ 吉川中学校の生徒は、学力・自立心があり、何事にもよく考えて熱心に取り組んでおられます。これも先生方のご指導の賜物と思います。</p> <p>○ 吉川中学校の生徒の作品は素晴らしいものが多くいつも感心させられています。西公民館が近いところから、学校での展示が終われば、公民館でも展示して、地域に公開してはいかがでしょうか。小さな学校として、さらに地域と結びついて充実した教育を実施していく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>○ クラブ活動については、生徒数の減少に伴い難しい運営になっていくと考えられます。クラブの在り方「大会出場を目指す従来型のクラブ活動」ではない新しい形のもの、例えば、「トレーニングスポーツクラブ」。このクラブは、「複数種目に取組みたい」というニーズに応える側面もあり、ハンドボールやバレーボール、ダンスや卓球など、さまざまな種目を行うことにするなど。また、様々な文化的活動を行う「文化クラブ」など。運営は「勝利を目指すという目標を持っているクラブ」と違い、興味・意欲の持続が大変難しいと思われませんが…。従来のクラブ活動の考え方ではなく、まさに「生徒の意欲と自主的行動力を育てる」新しいタイプのクラブを生み出すことが必要になってきているかもしれません。</p> <p>○ 西公民館やユーベルホールに近いことを利用して、地域社会活動と結びつけ、さらに「信頼される学校づくり」に邁進してほしいと願います。</p>